

ブルーボネット

学校文集第 50 号

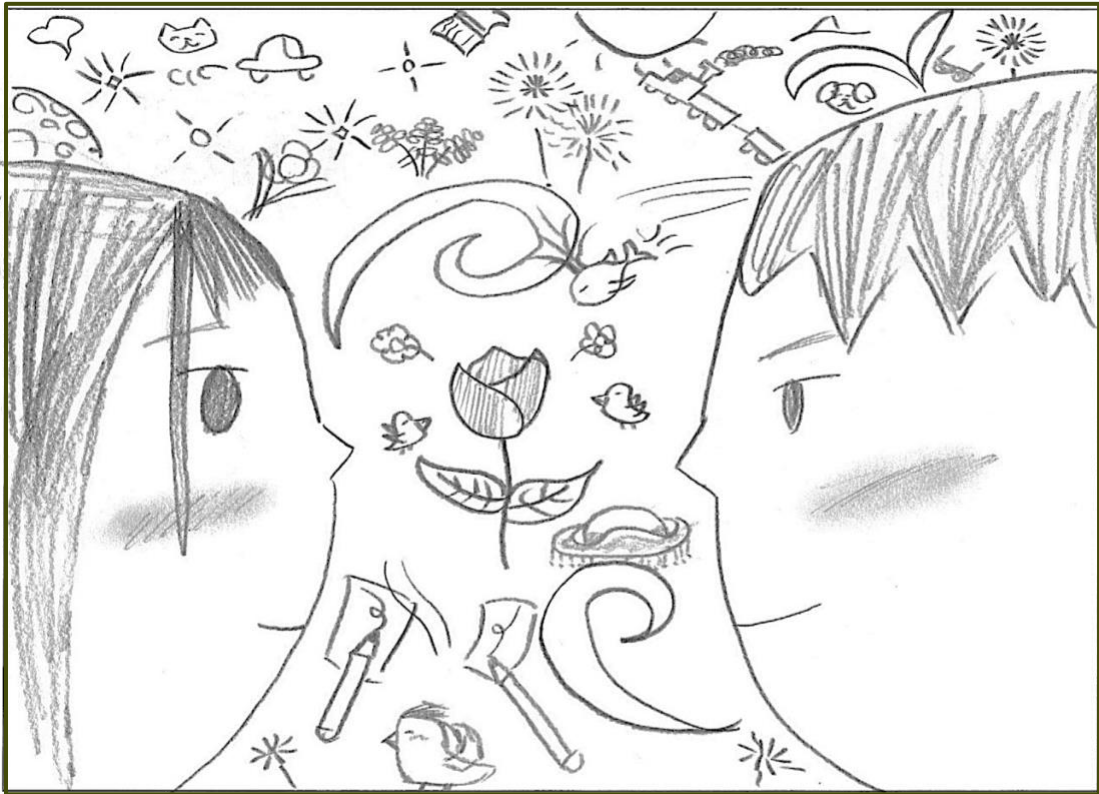


イラスト 小学部三年 ルーデマン 蘭奈

令和 7 年 (2025 年) 度

ヒューストン日本語補習校

やくそく

ベルがなって みんなあつまる
うちゅうに一ばんちかいほしゅう校へ
今日も一日のはじまりだ

みんなで 日本語の本をひらく
むずかしいな
このかん字 なんていうかん字だろう

おべん当の時間だ
ふたをあけるといいにおい
お友だちと食べると もっとおいしいな

休み時間は お友だちとおにごっこ
「おにだ! にげないと!」
あっ おにになっちゃった

きょうしつにもどり 合科の時間
わたしの一ばんすきな時間
今日もほしゅう校は 楽しかったな

わたしはここでやくそくする
これからも日本語を大切にすることを



小学部二年B組 おちあい かほ

巻頭言

学校文集「ブルーボネット」第五十号に寄せて

校長 皆川 宏志

当校は今年度創立五十四年目を迎えました。そして、この文集は今年度五十回目の発刊となりました。当校が大切に続けている活動の一つがこの学校文集です。

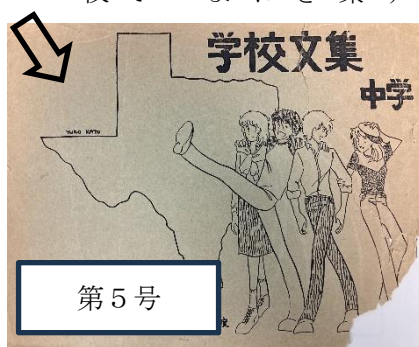
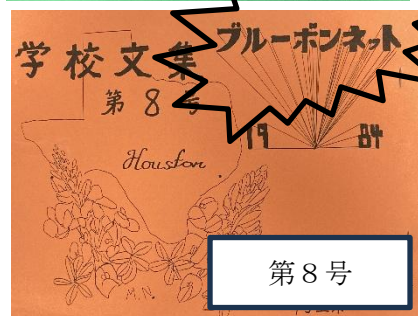
「不易流行」という言葉があります。が、変化の激しい社会環境、教育環境の中で、しっかりと継続されてきたこの文集こそ、本補習校教育における「不易」の一つであると言えます。

記念すべき第五十号発刊に際して保存されている文集の表紙から学校文集の歴史を紐解いてみます。

学校に保存してある文集で一番古いものは一九八二年度 第五号です。

たようです。学部で分けて製本してあります。

一九八三年度 第七号にはタイトルがあり、



一九八四年度 第八号から「ブルーボネット」というタイトルがつけられました。

第八号の「ブルーボネット」というタイトルに違和感を覚えたが、その後しばらくこの「ブルーボネット」が作られています。

二〇一六年度 第四一号まで「ブルーボネット」が発行されますが、翌二〇一七年度 第四二号は現在の「ブルーボネット」にタイトルが変更されました。

小さなタイトルの変更はありますが、この五十冊の文集には、当校で学んだ子どもの当時の思い出がたくさん記録されています。

社会は急速にデジタル化が進み、文集や卒業アルバムもデータ化されています。

保管や運送時に「不便を感じる」との声もいただいておりますが、当校は印刷製本にこだわり続けます。データでは数年後、数十年後に日焼けした文集をパラパラとめくり、ヒューズトンでの思い出を振り返ることができないと考えているからです。

この文集をご覧になるときに、ヒューズトンで日本語による日本の教育を学び続け、当時の気持ちを日本語で残した価値を感じていただきたいと思います。

最後になりましたが、文集作成にあたり、お忙しい中テキストファイルへの清書にご協力いただきました保護者の皆様方に心より感謝申し上げます。

